

文化

沈黙に向き合う 沖縄戦聞き取り47年

石原 昌家

(63)



沖縄戦で戦死した米兵らの名前も刻銘された平和の礎前で戦没者を追悼する人々＝糸満市摩文仁

前回、県の各種委員会で
は起こりえないような刻
銘検討委員会(の前身)に
いて記録してきた。既存の
戦没者名簿をふまえながら
も、沖縄の戦没者名の全
調査をするという提起は、
日業務に追われている真
庁職員にとって、なんと無
謀な提案をするのだと思わ
れていた。だが、私はゼミ生たち
と各地で沖縄戦実態調
査を実施してきて、とてつ
もない時間と努力をさかれ
ることに直面し、一大学教
員とゼミ生たちが取り
組むことにどんな意義が
あっても物理的に限界を感
じていた。それで、全戦没

者を刻銘する県の計画は、
千載一遇の好機到来だ、こ
の機を絶対に逃すことな
く、全庁の戦災調査を実施
してもらおうと必死な思い
だった。

検討委発足と調査

1993年4月26日、第
一回「刻銘検討委員会(石
原昌家大学教授、大城将保
博物館課長、上地弘生活福
幕営時の沖縄県出身刻銘者

平和の礎⑤

外国人刻銘へ交渉 名簿抽出に時間要す

外国人刻銘へ交渉 名簿抽出に時間要す

「3、4年以上はかかるだ
ろう」といわれたという調
査期間は93年11月26日か
ら94年3月18日までのわずか
4カ月弱の予定だった。除
幕当時の沖縄県出身刻銘者
は14万7110人だったの
で、その人数を調べるには
県内全域で想像を絶する時
間と努力を要している。
しかし、私は前回紹介し
た92年度石原ゼミ生(榎原
雅樹・村田達・田場典一・
桃原峰夫・前田志乃・源京
子・田港若菜・玉城千浩・
又吉健次・山城みどり・長
嶺厚美・上門安江・仲与根
ゆかり・大城朝義ら14名の
若者たち)が、緑もゆかり
もない地域で古老たちの積
極的な協力を得ながらでは
あつたが、調査の一部の戦
没者名簿作成を2カ月で完
成できた。その実績は当然
確認・報告書作成作業は除
いて、あつたので、沖縄
県全域で一斉に調査をすれ
ば、その実現の可能性を確
信していた。県の総責任者
だった高山知事公室長によ
ると全県で5千人のボラン
ティアが一斉にその調査は
執り行ったという。たとえ
ば名簿市を例にあげると、
和の礎の発信力を高め、二平
和の礎を後世に語る後継者
の育成」などに関する事業
を行う沖縄平和の礎の会
が結成された。会長は高山
朝光、副会長は新垣義三、大
浜進、松本淳、波平剛、事務
局長は比嘉博の諸氏で、最
も平和の礎建設で苦勞した
県庁OBのみなさんである
。私も顧問の一人として
その会に名を連ねている。
平和の礎創設25周年を目
前にして、現県政に平和の
礎の記念事業を提案してき

社部副参事、仲里正義援護
課副参事、松本淳平和推進
課長)が開催された。予定
調和的に私が座長というこ
とになった。私のメモには
「座長受。戦死者全数調査
決定」と記されているので、
これまでの県庁の職員との
打ち合わせ通りに、気の遠
くなる県全域の全庁調査の
実施をこの日決定したので
ある。
しかも、95年6月23日(慰

5地区に55集落あり、それ
ぞれの55人の区長が調査協
力者の中心になり、戦没者
名簿作成と確認作業を行っ
ている。
2019年9月5日、「平
和の礎の建設の趣旨や基本
理念を踏まえ、平和の礎の
場から平和の礎と戦争の
悲愴さを国内外に発信する
ことを目的」として、「平
和の礎の発信力を高め、二平
和の礎を後世に語る後継者
の育成」などに関する事業
を行う沖縄平和の礎の会
が結成された。会長は高山
朝光、副会長は新垣義三、大
浜進、松本淳、波平剛、事務
局長は比嘉博の諸氏で、最
も平和の礎建設で苦勞した
県庁OBのみなさんである
。私も顧問の一人として
その会に名を連ねている。
平和の礎創設25周年を目
前にして、現県政に平和の
礎の記念事業を提案してき

は、沖縄社会全体が半世紀
前の凄惨な地上戦闘を思い
起こすことになった。しか
も、一家全滅の家族名簿、
お互いの関係者で掘り起こ
す中で、当然、それぞれ
地域の元国連友報部長とし
ての交渉力を生かしてもら
い、除幕に間に合わせるこ
とができた。その間、比嘉
博さんはコンピュータ会
社にすべての名簿を管理処
理する作業の指示に苦心し
ながら、米軍兵士1万40
05人を抽出させた。その
結果、日本軍兵士同様、米
軍兵士もすべて官位をなく
し、一個人としてアルファ
ベット順に母語で刻銘する
ことができた。(写真参照)
さらに、朝鮮半島から強
制連行されてきた犠牲者の
刻銘も難渋していた。日本
の朝鮮優出の結果、戦後半
島が北緯38度線と民族分断
され、北と南で朝鮮民主主
義人民共和国と大韓民国と
いう国名がついた。それで
刻銘対象者名の調査も難航
したが、刻銘板ではすべて
朝鮮と刻銘すべきという主
張をめぐり、両国の意見が
分かれた。最終的には、国
連加盟国名に依拠することに
決着をみた。(次回から
は除幕とその後について述
べる)
(次回は7月後半掲載予定)